

# KOIZUMI

小泉産業株式会社

発行：2024年6月

〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7

<https://www.koizumi.co.jp/>

# COMMUNICATION REPORT 2024

小泉産業グループ



この製品は、適切に管理されたFSC® 認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。



この印刷物は、石油系溶剤を含まないノンVOCインキを使用し、印刷しています。

KOIZUMI  
— 違う発想がある

# 「三方よし」の発想で 時代のニーズに合わせ、変革を続ける。

小泉産業グループは、創業以来いつの時代も  
お客様やお取引先のニーズを踏まえ、自らを変革してきました。

その根底にあるのは「三方よし」の発想。

社会に求められる存在であり続けるために  
人を育て、お客様を思い、自分たちにしかつくりえない価値を生み出していきます。

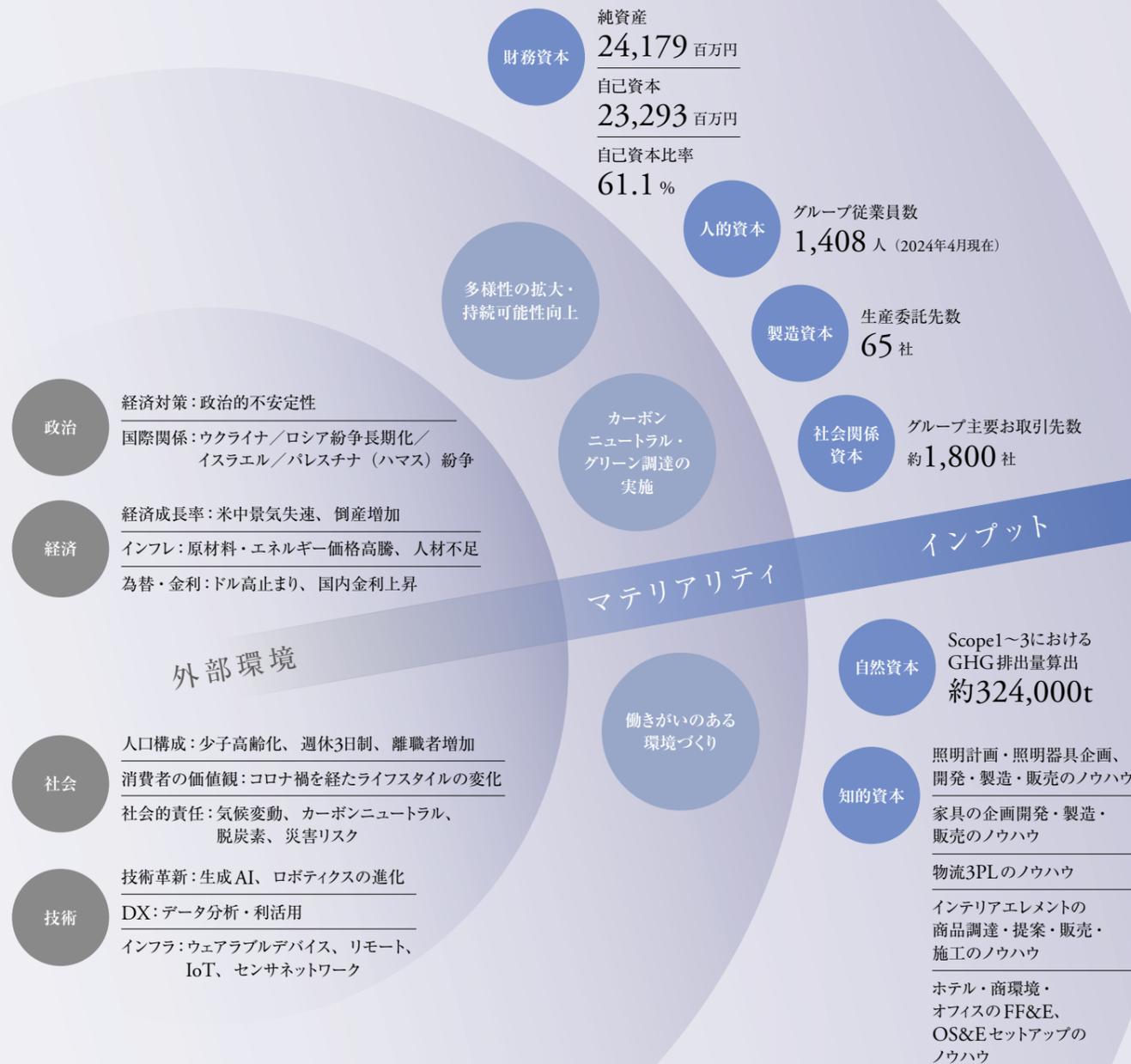
## CONTENTS

2	INTRODUCTION
4	価値創造プロセス
6	小泉産業グループ価値創造のあゆみ
8	小泉産業グループの事業紹介
10	GROUP TOP MESSAGE
12	小泉産業グループ・ビジョン2030
13	SDGsへの取り組み
14	SDGs GROUP TOPICS
18	コイズミ照明株式会社
18	TOP MESSAGE
19	虎ノ門ヒルズ ステーションタワー
22	セキスイハイム近畿様 箕面パルフェ・箕面デシオ展示場
24	コイズミファニテック株式会社
24	TOP MESSAGE
25	学習家具事業 新商品開発
26	プレキッズ事業
26	スリープテック事業
28	株式会社ハローリビング
28	TOP MESSAGE
29	ワーカーズラウンジ カウンターテーブルの製作・納入
30	株式会社ホリウチ・トータルサービス
30	TOP MESSAGE
31	庁舎の什器搬入設置とアンカー工事
32	コイズミ物流株式会社
32	TOP MESSAGE
33	リサイクル活動の推進サポート
33	新倉庫開設
34	小泉産業グループ概要



# 価値創造プロセス

小泉産業グループは、進取の気性、特殊特徴品主義、「人格の育成向上」をベースにした商道德と社会教育を強みに、照明事業・家具事業・設備機器販売および施工事業・セットアップサービス事業・物流事業を展開しています。そして、売り手・買い手・世間よしの「三方よし」で新たな価値を創造し、人と社会に夢と感動を提供しています。



## SPIRITS

進取の気性

特殊特徴品主義

「人格の育成向上」をベースにした商道德と社員教育

お客様を思う姿勢、粘り強さ、積極性、情熱、アイデアとセンス



**売り手よし**  
（従業員）

最大限のパフォーマンスを出せる働き方の実現と推進

最先端の技術を駆使したスマートな照明環境

未来の生活・成長・環境を応援する家具

空間づくりのための商品調達・提案・施工のワンストップサポート

ホテル・商空間・オフィスのセットアップ・一括管理

最適な物流システム構築のサポート

**買い手よし**  
（お取引先・お客様）

時代の流れとお客様のニーズに応える

「\_\_違う発想がある」の精神で生み出す商品やサービス

**グループビジョン**

私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される“価値創造の専門集団”をめざします

**グループ経営理念**

新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し人と社会に夢と感動をつくり出します

**アウトカム（効果）**

**経済価値**

- 売上高 403 億円 (23年度)
- 営業利益 1,494 百万円
- 経常利益 10 億円 (23年度)

**社会価値**

- 管理監督職女性比率 2.9%
- 従業員エンゲージメント 46.9

**人財価値**

- 人材開発・研修の総費用 50,000 千円
- 従業員一人当たりの生産性 594 千円

**世間よし**  
（社会）

300年以上の歴史を乗り越え、次世代につながる

SDGsを意識したビジネス展開

# 「違う発想がある」

ブランドの強み・らしさの源と現れ

いつの時代にも新鮮な驚きと夢を届けるコイズミの製品・サービス。  
これらは常に「枠にとらわれない創造性と革新性」から生まれています。



1947 コイズミ照明機器のルーツ  
「電気スタンド」

敗戦から2年目、家庭電化時代の到来を予測し、電気生活用品を開発。その一つが電気スタンド。以後、フレキシブルスタンドに始まり、カットスタンドや和風スタンド、そして蛍光灯スタンドへと進化する。



1966 業界初の蛍光灯付き学習机  
「蛍雪」

高度経済成長で人々の生活にはゆとりが生まれ、モノへの投資のみならず、子どもへの投資・教育熱も高まった。そこに着目し、自社の照明技術を活かした、業界初の蛍光灯付き学習机を発売した。



1967 業界初の試み  
「照明のショールーム」

昭和40年代には照明を販売する取引先が急増。売り方がわかりづらい照明器具の「売り方提案の場」としてショールームを開設。商品を見るだけでなく、売り場づくりや提案のノウハウも提供した。



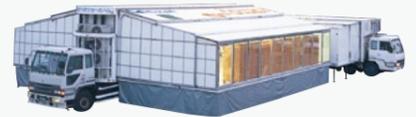
1967 料理ができる食卓  
クックテーブル「晚餐」

住宅の洋風化でダイニングテーブルの需要が伸びる中、「鍋料理で、ガスコンロの準備が手間」という主婦の声に着目。開発したガスコンロ付きのテーブルは、お客様ニーズにマッチし、大ヒット商品となった。



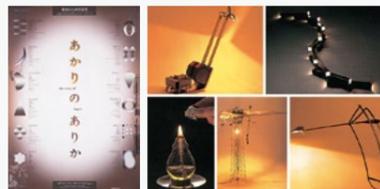
1978 棚を外せば高校まで  
「6・3・3で12年」使える学習机

従来の学習机は、本体と棚の一体型が主流。上級生でも平机として長く使えるよう、棚の取り外しができる設計で開発した新しい学習机は「6・3・3で12年」のキャッチコピーとともに普及した。



1982 動くあかりのショールーム  
「ライティング・セポール」

「現物を確かめてから決めたい」というご要望に応えるため、トレーラーを改造したショールームを特注。「全国津々浦々までショールーム」という発想で、全国のお客様に向け移動展示を行った。



1987 コイズミ国際学生  
照明デザインコンペ

若き人材の育成とあかり文化の普及を目的に、世界の学生を対象とした、世界唯一の照明デザインコンペを創設。以来25回開催し、応募者は延べ42カ国、3万3千人にのぼった。



1988 時代を変えた省エネ照明  
「インバータ照明器具」

省エネのトレンドを背景に開発された高効率、静音、瞬時点灯などが特長のインバータ回路。専業メーカーでいち早く商品化に取り組んだ当社は、充実のラインアップでお客様のご要望に応えた。



1990 体感型ショールーム  
「コイズミライティングシアター イズム」

従来の「器具のコーディネート」中心の考え方は一線を画し、ショールームに「体感」の概念を導入。さまざまなシミュレーション装置を導入した設備は、業界に新たな風を吹き込んだ。



2001 照明事業で「ISO9001」  
2002 「ISO14001」の認証取得

2001年に品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」、2002年に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。品質保証体制と環境経営機能の強化に取り組んだ。



2006 学習机の新しいカタチ  
「ステップアップデスク」

「机+上棚」から「机+書棚」への発想転換で、子どもの成長に合わせた自由な使い方を提案。この手法は、翌年の他社新商品でも多く採用された。



2013 LED照明提案型スタジオ「KLOS」

LED照明の最適化提案や最新技術紹介など、お客様との双方コミュニケーションによる課題解決を目指す場として開設。室内の表情を変えながら施設全体で光のあり方を表現できる。



2014 照明制御の国際規格  
「DALI」対応商品の発売

快適な空間を実現する照明制御技術として、大型施設やオフィスで普及が進むDALI。コイズミ照明は、他社に先駆けてDALI対応商品の開発に着手し、発売した。



2017 あかり文化創造拠点  
「コイズミ照明 R&Dセンター」竣工

「あかりの社」をコンセプトとした、LEDに特化した研究・開発施設兼実践型ショールーム。環境や働き方などにも配慮した革新的オフィスは、お客様からも高評価をいただいている。



2018 照明制御システム「TRee」開発

住宅のIoT化に対応し、家中の照明をコントロールできる「TRee」システムを開発。スマートスピーカーとも連携し、話しかけるだけで、設定したシーンへの変更や調光調色のコントロールができる。



2020 照明専門メーカー初の試み  
「BIMデータ」の提供

設計、施工、管理に関連するデータを集積して連携させ、生産性を向上するBIM(Building Information Modeling)。照明専門メーカー初のデータ提供を開始した。



2022 プレキッズ事業立ち上げ

「体育・知育・心育」の視点で子どもたちの健やかな成長を応援するプレキッズ事業を立ち上げ。学習家具事業で培ったノウハウを活かし、幼児・未就学児向けに3シリーズの新商品を展開した。



2023 プロユーザー向け施設  
「ライティングラボ大阪」オープン

住宅や商業施設、オフィスなどを想定した空間に設置した照明器具の明るさや色、高さや角度をタブレット端末で操作し、図面やカタログからは感じ取れない光の空間を検証できるラボ施設を開設した。

## 空間創造の幅広いニーズに グループ力で応える

住まいから働く場まで。

その空間づくりにかけるお客様の思いに寄り添い、グループの総合力でお応えする――

それが、小泉産業グループの使命です。

人々の暮らしや仕事に関わるあらゆる場所に、コイズミの技術と商品が息づいています。



### コイズミ照明(株)

#### 最先端の技術を駆使した スマートな照明環境を創造

空間づくりにおける照明設計と、照明器具の企画・開発を、住宅・店舗・施設の各領域で展開しています。お施主様のご要望に寄り添うご提案を行いながら、最先端の技術を駆使したスマートな照明環境の創造に取り組んでいます。



### コイズミファニテック(株)

#### 家具がもたらす未来の生活・ 成長・環境を応援

50年以上にわたり学習家具を展開しています。今後は、子どもだけでなく、全てのライフステージに合うデスク家具事業、幼児・未就学児に向けたプレキッズ事業、理想の眠りを追求したマットレス事業の3つの事業を展開していきます。



### (株)ハローリビング

#### 商品調達から提案・ 施工までワンストップで 快適空間づくりを全力でサポート

住宅・店舗・施設市場において、あらゆるインテリアアメントの商品調達・提案・販売・施工を通じてお客様の暮らしに快適さと心地よさをお届けします。



### (株)ホリウチ・ トータルサービス

#### 多様な施設を対象に セットアップ事業を展開

ホテル・オフィスをはじめとしたさまざまな施設を対象に、什器や家具のセットアップ事業を展開しています。事業のベースとなる人材育成に取り組みつつ、業態や取扱商品の拡大にも力を注ぎ、事業の成長を目指します。



### コイズミ物流(株)

#### 高品質な物流サービスを 幅広いお客様に提供

小泉産業グループ内外の幅広いお客様に物流ソリューションを提供しています。社員一人ひとりが物流のプロとして高品質なサービスを提供し続けることで、お客様からの厚い信頼を築いていきたいと考えています。



グループシナジーを発揮しながら、社員、お客様、

社会にとって「三方よし」のグッドカンパニーに



小泉産業株式会社  
代表取締役会長

権藤 浩二

1952年6月生まれ。大分県出身。1976年小泉産業株式会社入社。2007年より同社にてグループ経営に携わる。2013年株式会社ホリウチ・トータルサービス代表取締役社長。2020年小泉産業株式会社代表取締役社長。2023年より現職。

### 激変する市場に対応

第6次中期経営計画（2021～2023年）の最終年度を終え3年間を振り返ると、まず2020年に発生したコロナ禍は、私たちの生活様式はもちろん、働き方にも大きな変化をもたらしました。世界各地で起こる災害や紛争などの地政学的リスクも、グループ各社事業のサプライチェーンや物流の混乱、消費者の購買動向に大きな影響を与えました。そうした外部環境に大きく左右されないためにも、グループ各社には、事業ポートフォリオの見直しを急ぎ、第2、第3の柱をつくるように求めてきましたが、長期化したコロナ禍の影響は大きく、既存事業の立て直しに時間を費やした3年間だったように思います。

照明事業では、半導体不足による製造の遅れが販売機会損失を生み、売上を落とすことになりましたが、昨

年は半導体不足解消による売上回復に加え、地道な営業活動と利益率改善で大幅に業績を伸ばしました。家具事業では、少子化や学習環境の変化による学習機の販売不振と、急激な円安の進行、輸入コストの高騰、原材料費やエネルギーコストの上昇もあり、依然、厳しい状況が続いています。また、その他事業では、インバウンド需要を見据えたホテルの開業ラッシュを背景に、人手不足による逆風がありながらも、セットアップサービス事業は好業績を確保しています。

### 2030年を見据えて

第7次中期経営方針（2024～2026年）における小泉産業グループのビジョン「KGV2030」は“経済価値×社会価値×人財価値”とし、経営基盤を強固にするため



小泉産業株式会社  
代表取締役社長

矢本 博康

1956年11月生まれ。兵庫県出身。1977年小泉産業株式会社情報システム部入社。2017年より同社にてグループ経営に携わる。2019年コイズミファニテック株式会社代表取締役社長。2022年小泉産業株式会社常務取締役。2023年より現職。

に、足元ばかりを見るのではなく、もっと先の未来を見据えて持続可能な事業を大胆に行っていくよう、2030年に向けての経営目標を立てました。その6年先の数値を達成するために、この中期3カ年で何をするのか、また、今期をどうするのか、バックキャストで考えながら進めていきます。そのために、一人ひとりの社員が、今手掛けている仕事が6年後にも存在するのかを自問自答し、今、何をすべきかを考え実行に移しています。その上で、2024年度の基本方針は「人にこだわり、グループ各社の持続的成長と新たなビジネス領域の創造で3つの価値（経済・社会・人財）を最大化する」を掲げました。

“経済価値”については、グループ各社は、既存事業の回復と成長に注力し、小泉産業ではグループシナジーを活かした新規事業の創出を目指します。

“社会価値”については、ブランド価値向上のため、

アウトナーブランディングと同時にインターナルブランディングの重要性を再認識し、会社の理念を明確にし、社員に共感を促し愛社精神を高め、企業・商品ブランドの価値を向上させます。

“人財価値”については、良い人材を育て、これからの100年、200年先へと継続してもらうために、教育への投資は惜しみません。また、人事制度・評価制度を更新し、社員にとってより働きやすい環境を目指していきます。

未来に向け、より一層足腰を鍛え、グループシナジーを発揮して、グループ全体で成長し、社員、お客様、社会にとって「三方よし」のグッドカンパニーになることを目指し続けます。

小泉産業株式会社 代表取締役社長 矢本 博康

# KG V 2030

経済価値 × 社会価値 × 人財価値の最大化

## 基本方針 (2024~2026)

人にこだわり、グループ各社の持続的成長と新たなビジネス領域の創造で  
3つの価値を最大化する

## 重点方針 (2024~2026)

### 経済価値

売上高、経常利益、経常利益率を高める



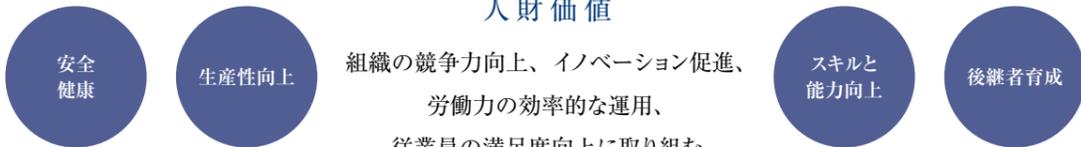
### 社会価値

社会貢献、環境配慮、倫理経営、  
多様性尊重、社会的責任を実践する



### 人財価値

組織の競争力向上、イノベーション促進、  
労働力の効率的な運用、  
従業員の満足度向上に取り組む

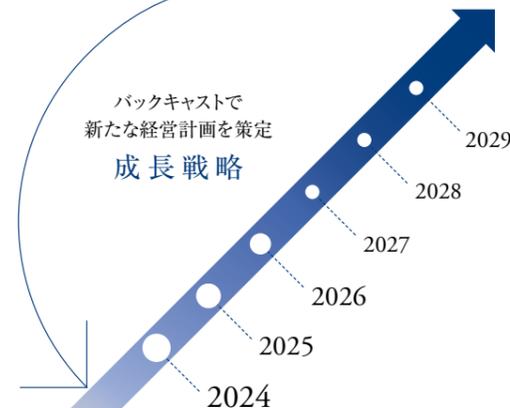


## KG V 2030 に向けてのロードマップ

目指す姿 (2030年)  
GOOD COMPANY

### キーワード

- 将来の成長領域を見極め、積極的な経営資源の投下
- 新たな価値創造に向け、挑戦する組織風土の醸成
- ビジネスを通じたマテリアリティに対する取り組みの実践
- 多様な人材、多様な働き方によるパフォーマンス向上



- 新規事業創造**  
小泉産業が主体となって新規事業の創造に取り組む
- 新規領域拡大**  
各事業会社がそれぞれの事業で新規領域の拡大に取り組む
- コア事業の強化**  
各事業会社がそれぞれのコア事業の確立と強化に取り組む

## SDGsへの取り組み

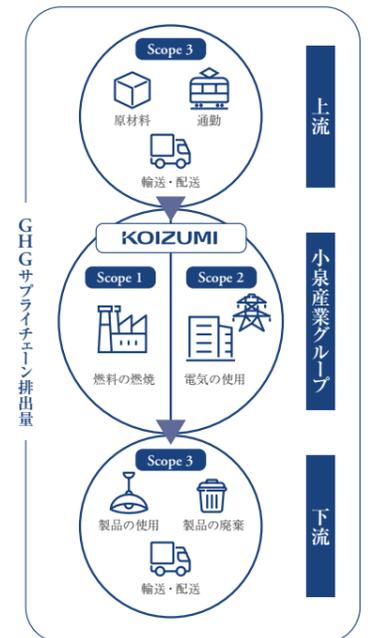
サステナブルな社会の実現に向け  
グループを挙げて  
目標達成を目指す

小泉産業グループでは、2021年から全社横断的な体制づくりとしてグループSDGs委員会を設置し、2022年には「コイズミSDGs行動憲章」を定め、サステナブル経営をより加速させるための取り組みを進めています。

具体的には、グループ共通の3テーマと各社個別の27テーマ、合計30テーマを設定し取り組んでいます。2023年度は、特にカーボンニュートラルの実現に向け、Scope1~3の全領域におけるグループ全体でのGHG(温室効果ガス)排出量把握をほぼ終え、全体像を顕在化させた上でリスク分析を行いました。

今後は各事業が取り組むべき削減項目の特定および目標設定、削減計画立案~実施へと進めていきます。

活動の成果は徐々に出ていますが、事業会社間での取り組みレベルに差があります。グループ全体で足並みを揃え、本業と連動したCSV視点の取り組み強化を推進していきます。



テーマ	目標/指標	2030達成値
多様性の拡大と持続可能性を高める 企業文化の醸成	監理・監督職 (室長・課長以上) における女性比率	30% ※ホリウチ・トータルサービス 15% ※コイズミ物流 20%
2050 カーボンニュートラル宣言に 呼応した グリーン調達の実現	温室効果ガス削減目標値を設定予定 (2024) グループ全体での GHG 排出総量 (2022年度) 約324,000t (Scope1~3)	
働きがいのある職場づくり	エンゲージメントの向上	エンプロイ エンゲージメント値 偏差値 50以上 /グループ全体平均

G各社取り組みテーマ数		SDGs対象ターゲットの状況																
		3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	17				
産業	4テーマ	1	1			1				1				1				
照明	5テーマ				2					1	3	2						
ファニテック	7テーマ		1			3			2	3			2					
ハロー	3テーマ	2	1			1					1							
ホリウチ	4テーマ		1	1		2	1	1		2		1	1	2				
物流	4テーマ	1				2				2			1	2				
個別計	27テーマ	4	4	1	2	9	1	1	3	9	4	3	4	5				

次頁より一部抜粋して紹介 >>>

# SDGs GROUP TOPICS

小泉産業グループは、「新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し人と社会に夢と感動をつくり出します」というグループ経営理念のもと、さまざまな活動を行っています。2023年度の主な活動をご紹介します。



**小泉産業株式会社**  
 ディーセントワークを推進する  
 新規事業の創出



昨年度、販売を開始したシニア向け分譲マンション事業（神戸ジェームス山 中楽坊）は好評を得ており、その他にも新たに3つの新規事業の企画・アイデア出しを行い、模索検討中です。継続的な情報収集と多様なアライアンス企業とのオープンイノベーションにより事業化を目指します。



**小泉産業株式会社**  
 安心して暮らせる社会のために  
 休日の社屋を有効活用



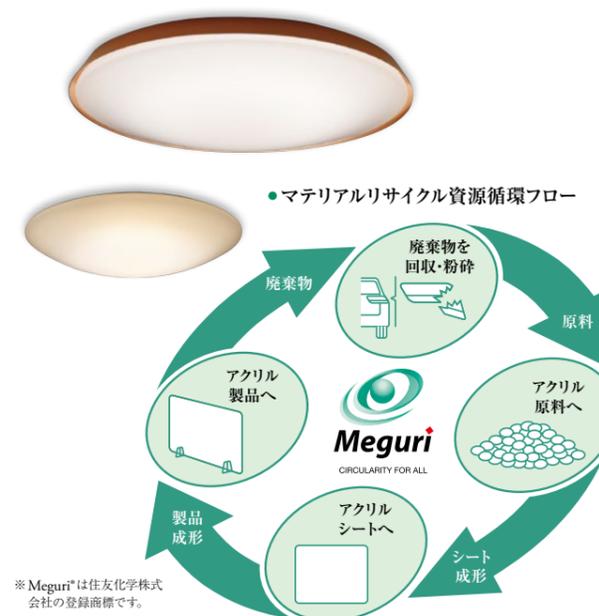
「使用していない休日の社屋を、社会のために役立てられないか」との発想で、2009年度から、NPO 法人大阪ライフサポート協会主催の一般市民向けAED講習会に、小泉産業本社（大阪市）の会議室を会場として提供しています。



**小泉産業株式会社**  
 モノを贈るだけではない、  
 ヒトを通じて心も贈る、  
 デスク・コタツ寄贈活動



東日本大震災の復興支援として2011年度から始まったこの活動は、2023年度で13年目を迎えました。第5回からは、小泉成器㈱も活動に参加し、これまでに合計40府県、250施設に、学習デスク638台（コイズミファニテック製）、家具調コタツ366台（小泉成器製）を寄贈しています。この活動で大切にしているのは「単にモノを寄贈するだけでなく、ヒトを通じて心も贈る」こと。社員が一部寄贈先に訪問し、子どもたちとコミュニケーションを取りながら一緒にデスクとコタツを組み立て、SDGs かるた等で交流を行っています。



※Meguriは住友化学株式会社の登録商標です。

**コイズミ照明株式会社**

環境に優しい再生アクリル樹脂使用の  
 シーリングライト



シーリングライトに住友化学㈱の再生アクリル樹脂セードMeguri®を使用。再生アクリル樹脂利用率が51%、再生アクリル樹脂シートの使用でCO<sub>2</sub>を従来比約40%削減しました。年間約260tのCO<sub>2</sub>削減を実現することになります。



暗くなると人が近づくと30秒間100%点灯します。

**コイズミ照明株式会社**

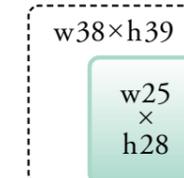
再生可能エネルギーを利用する  
 ソーラーパネル搭載ガーデンライトを発売



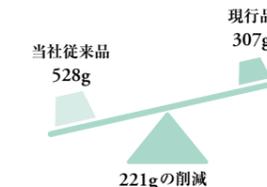
日中、ソーラーパネルで太陽光を吸収し、充電機に蓄電します。周囲が一定の暗さになると充電機に蓄電された太陽エネルギーを使って、自動的に設定モードに移行します。明るくなるとライトは自動的に消灯します。



●サイズダウンによる材料削減  
 従来比約 **42%** CO<sub>2</sub>削減



●本体(アルミ)使用量/1本あたり  
**528g** >>> **307g**



※L=1200mmでの比較

**コイズミ照明株式会社**

Light Bar (ミドルパワー)の  
 小型化によるアルミ使用量の削減



器具サイズの小型化により材料を削減し、CO<sub>2</sub>を従来比約42%削減。本体1本あたりのアルミ使用量を221g削減することにより、年間約200tのCO<sub>2</sub>削減を実現していきます。



**コイズミ照明株式会社**

使わなくなった制服と  
 回収された古着を再利用した  
 宿泊施設の  
 アメニティーバーを開発



2022年4月からスタートした『プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律』に合わせ、ホテル業界向けに、“再生材を使ったアメニティーバー”をコイズミ照明 施設家具部門が提案。ホテルスタッフの使わなくなった制服と自治体で回収された古着を、宿泊客用の各種アメニティーを納める家具として生まれ変わらせています。

# SDGs GROUP TOPICS



コイズミファニテック株式会社

## 海外生産拠点地域の 児童養護施設への 学習デスク寄贈活動



昨年度のマレーシア・イポーに引き続き、第2回目となる海外への寄贈活動は、インドネシア・ジャカルタの児童養護施設へスタッフが伺い、子どもたちと一緒に組み立て作業を行いました。今後も海外生産拠点を中心に、寄贈活動を継続していきます。



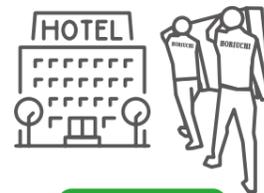
コイズミファニテック株式会社

## 健康管理を 経営的視点から考え、 戦略的に実践



昨年に引き続き、「健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）」に企業として認定されました。従業員のこころとからだの健康がなければ、企業も存続できない、という考えのもと、健康推進委員会が中心となってさまざまな取り組みを始めています。

マットレスの運搬、  
搬入・設置、搬出・運搬



リサイクルの起点

株式会社ホリウチ・トータルサービス

マットレスの再資源化



電気炉を用いて再資源化

電炉専門メーカー



マットレスの圧縮



マットレスの圧縮処理

中間処理会社

株式会社ホリウチ・トータルサービス

## 特定処理困難物指定の スプリング入りのマットレスリサイクル



スプリング入りのマットレスのリサイクルシステムを関東と関西で確立し、年間10,000枚を目標に活動しています。他エリアにも広げて、全国展開できるように進めていきます。



コイズミ物流株式会社

## 産学連携活動による 新規事業創出



社会的ニーズに合った新規事業を創出するため、次世代を担う大学生のアイデアを事業化する取り組みを行っています。物流の2024年問題に直面している中、業界に対するイメージを少しでも良くすることで、若手人材の確保にもつなげていきたいと考えています。



株式会社ハローリビング

## 電気自動車用 充電設備の設置



地域・社会・地球環境に貢献するべく、電気自動車用充電設備の設置に取り組んでいます。2023年度は累計46基を設置しました。今後も環境に配慮した商品の提案を行っていきます。



株式会社  
ホリウチ・トータルサービス

## 現場技術職の 女性従業員の育成



男性の比率が高い現場において、女性従業員の増員・育成を進めています。性別を問わず、共に同じ現場で働けるよう環境を整備していくことで、女性従業員の構成比を上げていきます。

小泉産業グループ

## 地域清掃活動



全国各地の事業所で、普段お世話になっている地域社会への感謝の気持ちを込め、清掃活動を行っています。2010年から全国展開した活動は毎年高い実施率を保っています。



# 変革課題を実践し多角的に品質を高め、新価値を創造する



コイズミ照明株式会社 代表取締役社長

## 佐久間 晋

2023年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されて以降、社会が落ち着きを取り戻す中で徐々に弊社の業績も回復に向かいました。特に約4年ぶりに開催いたしました各エリア内覧会や、新設したライティングラボ大阪においての新製品のご紹介や空間演出等、お客様に実際に体験していただけたことは非常にうれしく思います。テレワークやWebミーティング、オンラインセミナーなどが普及した一方で、このような対面でのコミュニケーションの大切さ、重要性を改めて認識する良い機会となりました。

2024年度は第7次中期経営計画のスタートの一年となります。お客様からのより大きな信頼を獲得するために、中期3カ年の計画で変革すべき3つの課題を設定しました。

1つ目は、顧客ニーズの変化に対応すべく「先進技術」を活かした照明器具の開発への取り組みです。そのために、これまで培ってきた光技術のさらなる進化と、それぞれの業態に合わせた照明制御技術をより高めるための開発体制を整えてまいります。特に制御技術に関して、住宅向けには無線照明制御システム「TRee」をリニューアルし、照明器具の調光や調色機能、スマートホームのサービスとの接続により他のスマート家電との同時制御も可能になりました。非住宅では、オープンプロトコルである「DALI」が、近年「DALI2」規格に改訂されましたが、それにもいち早く対応し、照明だけでなく、空調などあらゆる設備機器や、赤外線アレクサとの連動

により、省エネだけにとどまらない新しい「空間品質」の提案が可能になりました。今後も、あらゆる顧客のニーズにお応えできるよう体制を整えてまいります。

2つ目は、カーボンニュートラルに向けた取り組みです。新製品開発におきましては、照明器具のコンパクト化の技術革新により材料を削減することや、リサイクル素材を採用することによりCO<sub>2</sub>の排出量を抑えることはもちろん、住宅向けダウンライトなどでは感温性アクリルパネルを採用することにより点灯時の透過率を向上させ、業界での最高効率を実現するなど、カーボンニュートラルに貢献する取り組みにも注力しております。今後も取り組みをいっそう加速し、地球環境に対し、より大きな貢献につなげていく考えです。

3つ目はDX化についてです。これまで3年間にわたり基幹システムの構築を推進してまいりましたが、今年度にシステム移管を実施します。このことにより、個別で最適化、属人化されていたシステムをデジタルライゼーション化し、業務プロセスを改革します。また、販売計画をもとに最適な在庫管理を実現し、より安定的な供給体制を構築いたします。

以上3つの変革課題を全社一丸となり推進し、解決いたします。そしてコイズミ照明はこれからも、新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し、人と社会に夢と感動をつくり出すことを理念とし、社会に貢献できるよう努力を続けてまいります。

### 2024年度の変革課題

#### 先進技術を活かした照明器具の開発への取り組み

- ・光技術のさらなる進化
- ・業態に合わせた照明制御技術の開発

#### カーボンニュートラルに貢献する取り組み

- ・技術革新による材料の削減
- ・CO<sub>2</sub>削減につながる業界に先駆けた商品開発

#### DX推進の取り組み

- ・基幹システム移管によるデジタルライゼーション化
- ・安定的な供給体制の構築



2024年1月撮影

## 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー

### 複合施設

所在地／東京都港区

施行者・発注者／虎ノ門一・二丁目地区  
第一種市街地再開発組合 様

設計／森ビル一級建築士事務所 様  
OMA 様 久米設計 様

照明デザイン／Arc Light Design 様 GLOW 様

物件写真の撮影：鈴木文久

【開発営業】  
コイズミ照明株式会社  
渡司 茂

【照明提案・検証】  
コイズミ照明株式会社  
佐藤 絵美

【特注器具開発】  
コイズミ照明株式会社  
藤田 陽彦

【電設担当営業】  
コイズミ照明株式会社  
長浜 大輔

## 虎ノ門ヒルズ駅に直結した ステーションタワーのアトリウムに 特注照明を納入

### 社内の連携力と提案力で受注

都内で官公庁や大使館が集積する好立地に、「国際新都心・グローバルビジネスセンター」として誕生した虎ノ門ヒルズ。森タワー、ビジネスタワー、レジデンスタワーに続き、2023年7月にはステーションタワーが竣工しました。虎ノ門ヒルズ駅から広がるステーションタワーの地下大空間、ステーションアトリウムに、弊社の特注照明と、国際標準規格の照明制御システム「DALI」が採用されました。2020年に竣工した虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーのオフィスロビーにおける弊社の特注照明、照明制御システム「DALI」導入の実績も踏まえ、「ステーションタワー」においても、建築構造に沿った特注照明の提案が評価され、照明計画の実現に貢献できることになりました。また、屋外階段の照明や、高層階にある新しい情報発信拠点「TOKYO NODE」にも、照明器具を採用いただきました（渡司）

### 天井のデザイン性を活かすため 特注器具を製作 公共空間としての安全性にも配慮

ステーションアトリウムは、天井高が最大19mの大空間。その吹き抜けに対し、床レベルは3層あり、それぞれ天井までの高さが異なります。竣工後も空間ごとに調整ができるよう、「DALI」を提案。最終的には一灯一灯を制御できるように照明計画を行い、高いデザイン性、ご要望に応えることができました。

天井の意匠は、鋭角な三角形の組み合わせで構成される複雑な形状で、スリットの幅は端にいくにつれて狭くなっています。スリット内に光源を配置しつつ、天井裏からメンテナンス可能な構造にするという条件がありました。「提案時、照明についてはまだイメージ優先で計画されていました。そこで、設計担当者様やデザイナー様とコイズミ照明が一丸となって、ヒアリングやミーティングを重ね、天井のデザインを活かした理想の



地下空間とは思えない開放感のあるアトリウム。「DALI」制御で時間帯によって表情を変えています

光環境を実現するため、特注器具を製作することになりました」(渡司)

実際の照明効果を検証するため、データ上のシミュレーションに加えて、約9mの実物大モックアップを製作。関係者が一堂に会して検証会を実施したことで、イメージの共有化にも役立ちました。「一から手法を考え、器具の選定、検証により、理想の光環境イメージに近づけていきました。難しい挑戦でしたが、お客様が作りたと思う空間を必ずカタチにしたいという思いで取り組んでいました」(佐藤)

採用している照明器具は、それぞれ仕様が細かく異なるため、おのずと設計図面の数も多くなります。「当たり前のことですが、手間を惜しまず一つ一つ正確に仕上げていくことで、後の工程に影響が出ないように注意しました」(藤田)

ステーションアトリウムは、多くの人が行き交う公共空間です。万一の災害時には避難所になることも想定されているため、最大の安全保証が求められました。「地震発生時に照明器具が落下しないことはもちろん、その他の部品やナット一つさえも落下しない構造が求められました」(藤田)

工場で試作品の振動試験を実施し、現場に試験報告書を提出。安全のための対策もご理解をいただきながら開発しました。

### 施工現場の効率性と環境配慮に寄与

商品を現場に納品する工程では、工事を行う現場の効率性を高めるため、緻密な搬入計画に対応。グループ会社であるコイズミ物流との連携で、電気工事会社様のオーダーに従ったパッケージングで納品し、施工現場の作業負担軽減と効率化により顧客要望に応えることができました。「グループ内に物流会社がある強みを活かし、迅速に連携することで、納品時の細やかなご要望にも応えることができました。初回の出荷時は念のため自分も物流倉庫にて最終確認を行



新しい情報発信拠点「TOKYO NODE」。コイズミの照明器具が採用されました

いましたが、その後はコイズミ物流に安心して依頼できました」(長浜)

### 共創で理想の空間をつくる

「DALI」に対応したコイズミの幅広い商品群と、個別制御で細かい調整が可能な「DALI」を使った照明計画により、巧緻で美しい天井の意匠デザインを活かした空間づくりに寄与することができました。今回のように手間を惜しむことなく、とことん理想に近づけていく姿勢は、コイズミ照明のDNAに深く刻まれています。「東京を代表する複合施設の顔となる部分に当社の技術と製品が採用されたことはコイズミとして誇らしく、竣工後は家族と出掛け、紹介したくなる現場でもありました」(長浜)

「国内外問わず、プロジェクトに関与する方から、『この人たちとなら』と信頼されるために、対話を大切にして照明の仕事に向き合ってきました。お客様からいただいた感謝の言葉を自信に変えて、これからもお客様の理想の空間づくりのお手伝いを続けていきます」(佐藤)

コイズミ照明は、お客様やパートナー企業との共創で挑戦を続け、照明の力を通して新たな価値を提供していきます。



屋外階段部分にもコイズミの照明器具が採用されています



「箕面パルフェ」の1Fリビング。コープ照明で開放感のある空間を演出。天井にパンクライトを取り入れることで、空間をすっきりと見せています



「箕面デシオ」の2Fリビング・ダイニング。「TRee」で、生活シーンに合わせた照明を手軽に演出できます

1. 起床から朝食タイムへとさわやかなあかりに切り替えて、気分も徐々に目覚めモードへ
2. さわやかさの中にあたたかさをプラス。午後のティータイムなどにもぴったりです
3. 家族が集まる夕食や団らんタイムには、あたたかみのあるあかりでゆったりとした時間を過ごせます
4. 陰影感のある落ち着いたあかりが、バータイムやシアタータイムのような雰囲気演出

## 一日のスタートから、夜のやすらぎタイムまで「TRee」でつくる、あかりを楽しむ暮らし

### 箕面パルフェ・箕面デシオ展示場

#### モデルハウス

所在地／大阪府箕面市

事業主／セキスイハイム近畿株式会社 様

設計・施工／セキスイハイム近畿株式会社 様

【開発営業】  
コイズミ照明株式会社  
垣戸 こそえ

【開発営業】  
コイズミ照明株式会社  
東内 薫

#### 照明制御システムで快適な住まいをモデルハウスで体験

近年、住宅には環境負荷に配慮したサステナブルな暮らしや、時短につながる便利な機能が求められています。そうしたニーズに応えるため、セキスイハイム様ではIoTの導入による住宅機能の高度化を追求し、照明制御に関しても新しい機能をご要望されています。以前から、セキスイハイム近畿様のお打ち合わせ空間や展示場に、当社の照明制御システム「TRee」をLDK・主寝室に導入いただいていたのですが、今回の住宅展示場に新設されたモデルハウス「箕面パルフェ」と「箕面デシオ」では、全館で採用いただきました。

「IoT機器を使いこなすことが難しく感じている方々にも、モデルハウスで実際に体験していただくと、その魅力に気づいていただけることがあります。起床時から、朝食の時間、趣

味の時間、くつろぎの時間など、生活シーンに合った設定をボタン一つで呼び出すことができ、皆さんの照明を一括制御できる便利さをぜひ実感していただきたいですね」（垣戸）

#### 進化し続けるコイズミの照明制御システム「TRee」

照明制御システム「TRee」は、2018年の発売開始以来、進化を続けています。より手軽に導入いただだけ、より快適にご利用いただけるよう、2023年には新たな機能が追加されました。従来通りWi-Fiでのスマートフォンやスマートスピーカーなどでの操作に加え、専用のスイッチを用いれば、Bluetooth®による無線通信で、より快適な通信環境を実現することができました。

「近年は、照明が住宅の快適性や利便性を高めるコンテンツの一つとして位置付けられるようになってきています。今回のモデルハウスでは、

新しい「TRee」を発売直後にいち早く体感していただけることになりました。操作性が高まったことで、新しいお住まいに、より取り入れていただきやすくなっています」（垣戸）

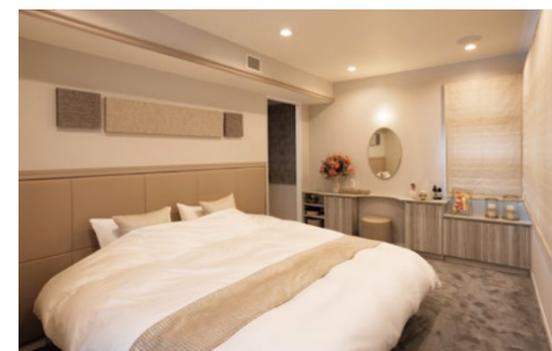
#### 2棟への全館同時導入に社内の連携力を発揮

当初、「箕面パルフェ」の「TRee」導入は一部の予定でしたが、のちに全館（※1Fエントランスを除く）への導入が決定しました。そのため、照明器具のオプションパーツなどに変更が生じましたが、負荷容量確認や納期調整、設定まで、社内の関連部署が一体となることで無事に成功させることができました。

「せっかく全館にご採用いただいたからには、完璧にしたいという思いで、全力を尽くしました。また、同日にオープンされるモデルハウス「箕面デシオ」も、全館制御でのご依頼をいただき、

同時期に進めることになりました。設計の難度が高く、限られた時間の中でしたが、「TRee」を製作する部署のメンバーの協力を得て、無事に間に合わせることができ、ほっとしています。コイズミ照明の連携力のおかげですね」（東内）  
コイズミ照明では、インテリアコーディネーター

の皆様や営業担当の方々を対象とした「TRee」の勉強会も実施するなど、導入から運用まで全面的にフォローしています。モデルハウスの魅力向上に貢献するために、これからも「TRee」の展開に注力していきます。



「箕面パルフェ」の主寝室。「TRee」で健やかな眠りへと誘うあかりに設定



「箕面デシオ」の和室。大ぶりのペンダントライトとコーニス照明で落ち着いた雰囲気演出



コイズミファニテック株式会社 代表取締役社長

## 若林 俊宏

コイズミファニテックは、学習家具メーカーとしてお客様の暮らしに寄り添い、付加価値のある高品質な商品を市場に提供してきました。しかし、少子化による市場縮小や学習スタイル・消費動向の変化の中で、成長するためには変革を進めなければ生き残れない環境となっています。2024年度より、基本理念を「よく学び・よく遊び・よく眠る」子どもたちの健やかな成長を応援し、豊かな社会づくりに貢献する」と改定しました。子ども子育て応援企業として、事業ドメインを再定義します。そして、3つのキーワードのもと変革を進めます。

1つ目は経済価値を高めるための「事業ポートフォリオの再構築」です。既存の学習家具事業は、デスクの総合メーカーとして広く学びの空間を提供することで売上を維持し、新たにプレキッズ事業とスリープテック事業を立ち上げ育成します。プレキッズ事業はB to Cのみならず、幼児施設や商業施設等のB to Bへ販売チャネルの幅を広げていきます。スリープテック事業は、宿泊施設の新規開業・リニューアルの需要増をチャンスと捉え、こだわ

りを求められるお客様へ寝心地とかがたちがオーダーメイドできるマットレスを提供していきます。この2つの事業を軌道に乗せ、5年後には売上構成比を50%以上にすることを目指します。

2つ目は社会価値を高めるための「リ・ブランディング」です。コイズミファニテックの認知度を高めるため、SNSでの発信やイベント企画により、市場コミュニケーションの質と量を高めます。

3つ目は、人財価値を高める「人的資本経営の質向上」です。変革を進める上で最も重要なのは人的資本です。人の成長なくして会社の成長はありません。社員の自律的な成長を支援するため、さまざまな教育機会を提供し、キャリア形成を実現できる人事制度改革も進めています。また健康経営にも取り組み、心身ともに明るく元気な企業風土を目指します。その上で、全社員が新しいことに挑戦する価値創造のプロ集団となり「グッドカンパニー」を実現します。

### 2024年度の展望

#### 経済価値の最大化

- ・新規事業拡大と既存事業の維持
- ・付加価値創造の商品開発
- ・マーケティングプロセスのDX推進

#### 社会価値の最大化

- ・リ・ブランディングと発信力向上
- ・ESG経営と経営体質強化

#### 人財価値の最大化

- ・個々人の自律支援
- ・従業員エンゲージメント向上

## 多様化するライフスタイルに合わせ、 学習家具で子どもたちの成長をサポート

### 学習家具事業 新商品開発

※ 画像はイメージです。実際の仕様とは一部異なる場合があります。



[商品開発]  
コイズミファニテック  
株式会社  
徳尾野 仁



[商品開発]  
コイズミファニテック  
株式会社  
上城 早紀子



[商品開発]  
コイズミファニテック  
株式会社  
稲葉 一起



ライフスタイルが多様化する中、コイズミファニテックでは学習デスクの魅力を再発信すべく、リ・ブランディング活動を推進しています。

今年度の新商品の一つ（画像1）は、幼保施設の教育方針などでも実践されているモンテッソーリ教育\*の考え方に注目し、開発を行いました。「未就学の幼児期から自分専用のデスクと椅子があることで、“自己教育力”を発揮し、また、物を大切にすることも育んでもらいたいという思いから、一時期しか使えない幼児向けデスクや椅子ではなく、大きくなってもしっかりと使ってもらえるようにと考え開発しました」（上城）

デスクの高さは2段階に調整でき、幼児期を終えると一般的な学習机の高さに組み替えることができます。また、椅子はシェルフの一部となってランドセル置きになるよう設計されています。「幼児向けデスクの課題である“一時期しか使えない”点を、コイズミの得意とする組み替え機能で解決

しています。幼児期から中学生や高校生になるまで長い期間使っていただけるよう耐久性も兼ね備えています」（徳尾野）

もう一つの新商品である電動昇降デスク（画像2・3）は、リビング学習が多い現代の学習スタイルに合わせて開発しました。これまでも電動昇降タイプは発売していましたが、リビング・ダイニングに置きやすく、かつ将来子ども部屋へ移るときも使い続けられるようなサイズ感を実現。また、子ども部屋へ移設せずそのままリビング・ダイニングに置き続けることも想定しています。「お客様のご意見として、『子どもがダイニングのテーブルとチェアで宿題をしているが、勉強するには高さが合わず姿勢が気になっている』というお声がありました。保護者のそばで安心して学習できる環境はそのままに、勉強するルーティンを崩すことなく、リビング・ダイニングに置いていただけるような商品を再検討しました」（徳尾野）

最大の利点は、電動で手軽に天板の高さを微調整できるので、子どもから大人までそれぞれの身長に合わせた適切な高さに合わせてことができ、また立ち姿勢での学習や仕事にも対応できる点です。「リビング学習の課題の一つである“インテリアを阻害してしまう”という点もクリアするため、シンプルなデザインかつ家族で共有しやすい機能を備えた電動昇降デスクが最適解なのでは、という発想から今回の開発につながりました。勉強スペースとしてはもちろん、ボタン一つで高さを手軽に変えられるので、大人の方もテレワークや作業などに使っていただきやすくなっています」（稲葉）

家庭内にデスクがあることで、“思い立ったときにいつでも勉強できる”場が提供できるよう、コイズミファニテックはこれからも子どもたちと家族のためのサポートを続けていきます。

※ 20世紀初頭にイタリアのマリア・モンテッソーリ医師によって考案された教育法

# 子どもたちの 成長とともに物語を紡ぐ 環境に配慮した 安心・安全な家具を提供

## プレキッズ事業



【開発営業】  
コイズミファニテック株式会社  
寺田 勝紀



【開発営業】  
コイズミファニテック株式会社  
西野 伽奈子



カムダウンタイムにも使っていただけるベンチタイプの家具

2022年に立ち上げた未就学児・幼児を対象としたプレキッズ事業『KOIZUMI PRE KIDS ROOM Hagu (はぐ)』が3年目を迎えました。幼児教育の現場から寄せられるニーズやサステナビリティを意識した新たな発想により商品ラインアップを充実させ、販路も拡大しています。

ふすまの構造材である紙板（再生古紙段ボールの合板）を素材とした『賢具』シリーズでは、保育園などでパーテーションとして使用できる家具を開発。先生方が学年や時間帯ごとに空間を分けるために毎日動かしているパーテーションを軽量化し、労務負担を軽減できないだろうかという発想から生まれました。また、同じ素材で、子どものカムダウン<sup>※1</sup>の課題にも向き合った、

絵本の読み聞かせや一対一で会話する場面に役立つ家具も開発しました。「納品した保育園で、たくさん子どもたちがその家具の中で過ごしている様子を見て、安心できる居場所を提供できたことをうれしく思いました」（寺田）「保育園の先生たちからの安全への期待にも応えられる商品になっています」（西野）

SDGsの観点では、一時期だけで使わなくなるような家具ではなく、ずっと使い続けてほしいという思いから、成長に合わせてベビーベッドからソファや学習机としても使い続けることができる『つむぎ:123』を開発しました。構造材は北海道産のカラマツ材を使用し、廃棄されてしまう木材の削減にも一役買っています。塗料や接着剤

も食品衛生法に準拠したF☆☆☆☆<sup>※2</sup>に対応するなど、安心・安全と、耐久性を両立しています。また、『遊具』の新商品として、幼児世代親子に大人気の「はらぺこあおむし」とのコラボレーション商品も開発。幼児施設や商業施設で好評を得ています。

時代のニーズを捉え、子どもたちがワクワクしたりほっとできる居場所を提供するプレキッズ事業。今後も子どもたちの成長に寄り添ってきたコイズミだからこそ提供できる商品を展開していきます。

※1 気持ちを静めて落ち着かせること  
※2 ホルムアルデヒド等級が最上位規格であることを示すマーク。☆1~4は、数が多いほどホルムアルデヒドの放射量が少ないことを意味する



保育施設での導入実例。軽量のパーテーションは、職員の方々の労務負担軽減にも役立っていただいています



世界中で愛されている「はらぺこあおむし」とのコラボレーション商品。食品衛生法に準拠したノンフタル酸仕様のレーザーを使用し、職人がアートプリント・ウレタン加工・縫製・張り込み作業を行い、一つひとつ丁寧に造り上げています

ベビーベッドから、ベビーサークル、キッズソファ、デスクロータイプ、デスクミドルタイプ、デスクハイトタイプにまで可変する「つむぎ:123」  
組み立てや組み替えの負担を軽減するために、工具不要な大中小3種類のハンドル式ボルトを使用しています

# “快適な眠り環境”のために マットレス事業の 可能性を追求

## スリープテック事業



【スリープテック事業担当】  
コイズミファニテック株式会社  
國枝 頌平

コイズミグループとして、ベッドマットレスと家具、小物家電のブースをホテル・レストランショーに出展



家具事業を展開するコイズミファニテックは、これまで事業の選択と集中を行ってきた中で、主軸である学習家具事業とともに、ベッドマットレスの企画・販売事業も大切にしてきました。

ライフスタイルが多様化する現代において、一人ひとりに合ったマットレスの需要は特に高く、さまざまなメーカーが参入、新商品を打ち出しています。コイズミファニテックでは、オリジナル商品の販売や宿泊施設のOEM生産を数多く行ってきました。今年2月には、東京ビッグサイトで開催された「HCJ 2024 第52回 国際 ホテル・レストラン・ショー」へ出展し、高品質でコストパフォーマンスに優れたマットレスを、業界内へより広くご紹介する機会も得ました。「最大の強みは、寝心地・サイズ・形状の全てをフルオーダーした

唯一無二のマットレスを、適正な価格でお届けできることです」（國枝）

昨今はSDGsの考えから、マットレスを処分する際のポケットコイルの廃棄について環境負荷が懸念されますが、ポケットコイルを使わないファイバー素材のみで作られた『シルキーファイバーマットレス』の企画・販売も本格的に開始しました。他にも、同じKOIZUMIの看板を持つグループ会社である小泉成器の商品とともに、グループとしても“快適な眠りの環境づくり”に役立っていただけるよう、相乗効果を高めていきます。

これからも、コイズミファニテックだからこそ実現可能な「お客様一人ひとりのためのマットレス」をご提供していきます。



株式会社ハローリビング 代表取締役社長

## 上原 正人

会社の10年後、20年後を見据えたとき、若手社員が未来を語る会社になることが必要です。新設住宅着工が先細りとなる中で会社が成長するためには、まず自分たちが変わらなければなりません。そのため、第7次中期経営方針の重点方針を「提供価値の最大化と最適化により『一目置かれる企業』になる」とし、スローガンを「Be the Change!」としました。前中期経営方針において取り組んできた変革を継続し、「売り方」「売るモノ」「風土」の3つを変えていきたいと考えています。

1つ目は「売り方」です。お客様のご要望を待つ受動的営業から、攻めの営業へ変えていきます。担当者・責任者・経営層による『三層営業』を展開して、お客様との接点を増やすことで営業力を強化します。そして常に新規商材、プラスワンのアイテムを提案し、照明、エアコン、カーテン、壁装材だけではなく幅広い品揃えを誇る当社の強みを活かしていきます。

2つ目は「売るモノ」です。従来は照明とエアコンの物販と取付工事を中心でしたが、商材を拡大し、施工請負物件やインテリアコーディネート受託も増やしたいと考えています。今期から、営業とインテリアコーディネ

ターで構成するソリューション営業グループを発足し、マンションの共用部やホテル、病院、老健施設等、デザイン性が求められる案件に向けた提案活動を推進しています。また、新商材の開発にも注力しています。昨年はエポキシ樹脂を固めて一点ものの装飾品ができる「Resin +」を開拓、提案しました。独創性を求めるお客様から評価を受け、納入実績もできました。

3つ目は「風土」です。お互いを認め合い感謝を示すことができる社内専用SNSの活用や「語る会」によるコミュニケーションの活性化を進め、一方で内部統制委員会の活動も進めてきました。今年度も風土改革委員会と内部統制委員会の両輪で風土改革を進め、さらにエンゲージメントの高い会社を目指します。

以上の3つの変革の基盤となるのは、人財価値の最大化です。研修の実施や資格取得の推奨のほか、オーダーメイドスタイリストによるビジネススタイリングセミナーも実施しています。社員の一挙手一投足、全てにおいて「一目置かれる企業」になるために、お客様が求める価値を最大化、最適化して提供していきます。

### 2024年度の重点活動

#### 売り方を変える

- ・三層営業の実施
- ・新規商材の提案
- ・プラスワンアイテムの提案

#### 売るモノを変える

- ・施工請負物件の拡大
- ・インテリアコーディネート請負物件の拡大
- ・施工パートナーの強化
- ・マーケットインを反映した商材

#### 風土を変える

- ・社内専用SNSの活用
- ・風土改革委員会のリーダーシップ発揮
- ・内部統制委員会活動の強化

## 新しい商材でお客様のイメージを理想のカタチに

### ワーカーズラウンジ カウンターテーブルの 製作・納入

#### オフィスビル

所在地	大阪府大阪市北区
事業主	阪神電気鉄道株式会社 様
デザイン・設計	株式会社スペース 大阪本部 様
製作	有限会社芳賀製作所 様
レジン材料製造・販売	株式会社アルテコ 様 匠穀技研株式会社 様



[ソリューション営業担当]  
株式会社ハローリビング

#### 西田 豊彦



レジンとミズキの一枚板を融合させ、3層構造で奥行きと深みを出し、コーティング加工した一点物のカウンターテーブル。内部にはサーバー機器を収納しており、実用性も兼ねています



オフィスビルで働くワーカーのための専用ラウンジに納入。照明計画はコイズミ照明が担当しています

ハローリビングでは、重点方針として掲げる『売り方を変える』『売るモノを変える』を実現するため、常に“新しい商材”を探し、それらを活かしたソリューション提供活動に取り組んでいます。

昨年度は、新たな商材『レジン\*』を使った特注のカウンターテーブルを、株式会社スペース様を通じて『ハービスOSAKA』オフィスワーカー専用ラウンジに納入しました。

ハローリビングがレジンと巡り合うことになったきっかけは、異業種交流会でした。高い技術や素晴らしい素材がありながら、販路や納入実績が少ない工房等は多くあります。あらゆる可能性を秘めたレジンもその一つでした。ハローリビングなら、それらをつなぐ架け橋の役割も担えるのではと、協業の機会を模索していました。その後、レジンを紹介いただいた匠穀技研様と、原材料

メーカーであるアルテコ様、実際に製作しカタチにする工房である芳賀製作所様との協業により、魅力的な素材であるレジンを活かした商品の提案企画を検討することになりました。

そんな折、コイズミ照明の協力もあり、商空間プロデュースを行う株式会社スペース様へ、ポップアップ形式で商材紹介の機会を得ました。そこでサンプル展示したレジンが、チーフデザイナーの方の目に留まり、『宇宙・星空』というイメージを具現化できないかとお声がけをいただきました。そして、同社のデザイナーの方々と、芳賀製作所の方々とともに、耐久性や安全性、品質など細部を含めたプランを固めていくことになったのです。「コイズミ照明で店舗や施設の開発営業を担当していた頃から、スペース様とは協業させていただいておりました。同社は以前から、

“今までにない何か新しいもの”を求めていらっしやっただけ、ハローリビングだからこそご提案できるものがあるのではと考えていました」(西田)

何度も打ち合わせを重ね、レジンとミズキの一枚板を融合させた一点物のカウンターテーブルが誕生。「現地へ納品し、お披露目した際には、見守る関係者から歓声が上がり、私も鳥肌が立ちました。お客様にご満足いただけたことは何よりうれしかったですね。スペース様はもちろん、匠穀技研様、芳賀製作所様、アルテコ様、各社がつながり、唯一無二の商品を作り上げ、ハローリビングの役割も発揮できたと思います」(西田)

今後も、お客様が持たれているイメージや理想を具現化するために、まずは「ハローに相談してみよう」と思っただけのよう、ソリューション営業活動を推進していきます。

\*別名エポキシ樹脂。合成樹脂の一種。



株式会社ホリウチ・トータルサービス 代表取締役社長

## 熊野 裕章

ホリウチ・トータルサービスは、近年の新規ホテル開業と既存ホテルリニューアルの需要を受け、FF & E（家具・什器・備品）、OS & E（消耗備品）の搬入管理業務を拡大し、増収増益を継続しています。ホテルFF & E事業の需要は今後も続く見通しですが、特に搬入の難度が高いラグジュアリーやアッパーアップスケール（4つ星以上）に対応するため、今期は当社の技術力やノウハウを発揮する特別チームを創設します。また、都市部のみならず、地方都市でも開業やリニューアルが増加していることを受け、全国で体制強化をしていきます。一方、ポートフォリオのバランスを改善するため、ホテル事業以外のオフィス、商環境分野でも什器メーカーのお客様のご要望に応えるために体制を強化しています。

新中期経営計画では、「高い技術力の発揮と誠実な対応によりお客様に感動を与えられる企業になる」を経営ビジョンとしました。ホテルFF & E事業においては、事業主、デベロッパー、ホテルオーナー様からの直接受注で、全体の搬入管理業務をお任せいただくことが増えています。ホリウチに任せておけば安心、確実に信頼されるような仕事を重ね、より存在感を増していきたいと考えています。また、オフィス・商環境事業では、各地で什器メーカー様のご要望に応えられるよう、地域No.1の施工品質を目指します。

そのための重要課題が、無事故・無災害の現場達成です。経験値が浅いスタッフのフォロー体制やリスク回避のためのルール徹底など、飽くなき取り組みを進めていきます。そして業務効率化にも取り組まなければなりません。当社の現場数は、東京エリアだけで大小合わせ年間約6,000件あります。それらの業務管理は、従来はマンパワーに頼っていましたが、基幹システムの再構築を進め、業務効率化と見える化を図り、現場ごとの収支管理を高度化していきたいと考えています。

また、人材の確保も重要です。社員が力を最大限発揮するため、総合職と技術職を分けた新人事制度を導入しました。技術職については多能工化を進め、実力に応じた評価を行うマイスター制度を確立するほか、搬入計画全般の管理ができる人材のキャリア採用も強化します。

数年前から取り組んでいる廃棄マットレスの再資源化は、当社が主導となってリサイクルシステム処理フローを確立し、徐々に実績を重ねています。また、女性総合職・技術職の採用も継続し、誰もが活躍できる職場づくりを推進しています。あらゆる課題を克服し、社会にもお取引先様にも社員にも信頼される会社となり、企業価値の最大化を目指します。

### 2024年度の基本戦略

#### 安心安全の最大化

- ・“安全は全てに優先する”を実践する
- ・経済価値の最大化
- ・他社にない特上のサービスを提供する

#### 社会価値の最大化

- ・職務に直結させたSDGsの推進に全員で取り組む

#### 人財価値の最大化

- ・それぞれの分野で専門特化された人材を育成・獲得

## 豊富な人材と現場経験を活かしたセットアップ技術で 高品質なサービスを提供

### 庁舎の 什器搬入設置と アンカー工事

#### 町役場

所在地／栃木県塩谷郡塩谷町  
事業主／栃木県塩谷郡塩谷町 様



【進捗管理担当】  
株式会社ホリウチ・  
トータルサービス  
額賀 隆二

【施工業務リーダー】  
株式会社ホリウチ・  
トータルサービス  
千葉 貴之

【人材配置・施工業務】  
株式会社ホリウチ・  
トータルサービス  
太田 敏徳

2023年11月に新しく生まれ変わった「塩谷庁舎」（栃木県）は、一部木造を含む鉄筋コンクリート造2階建て、延べ床面積4,500㎡の町役場です。ホリウチ・トータルサービス（以下ホリウチ）がセットアップを受注したのは約2年前。新庁舎のオフィス家具のほとんどを担当されたコクヨ北関東販売様からお声がけいただいたことがきっかけでした。

「ホリウチが選ばれた理由の一つは、納期内に専門アンカー工事も行える人材と実績です」（額賀）  
今回のレイアウトは、1Fと2Fに長身の収納キャビネット数十台を、壁際ではなく執務室の中央に

配置しています。新庁舎は防災機能が強化されており、執務室の転倒防止対策も必須でした。「床下と長身キャビネットを固定するアンカー工事には、現場や搬入物によってさまざまなパターンがありますが、今回も事前にはっきりとシミュレーションし、専用資材なども万全に準備したため、実際の現場とのギャップはほとんどありませんでした」（千葉）

「私は作業全体を見ていたため、重要なアンカー工事を全面的に任せられる千葉の長年の経験値とリーダーシップが非常に頼りになりました」（額賀）

ホリウチは、全国各地にある営業所や地元の協力会社様から人材をアサインして作業計画を進めています。

「今回の現場では、仙台営業所の太田が、人材配置を的確に調整し、臨機応変に対応したことも作業の効率化につながりました」（額賀）  
「チームとして、期間中に作業員が入れ替わっても、共有しているルールを確実・丁寧に進めることで、納期遅れや事故もなく無事に完遂することができました」（太田）

個人の強みと組織としての強みを活かし、ホリウチでは確かな技術とサービスを提供しています。



コイズミ物流株式会社 代表取締役社長  
赤松 長太郎

2023年度はコロナ禍における巣ごもり需要の反動もあり、家電業界・家具業界を中心に既存荷主様の荷量が大幅に減少いたしました。一方で、3PL事業を中心に新規業態開拓を進めることができました。成長市場のペットフード業界、日用品、玩具、フラワー業界、EC物流の拡充、倉庫賃貸借事業の拡大、そして外部倉庫においても受託拡大を進めてまいりました。拠点戦略としても、2月に埼玉事業所を春日部第2営業所として開設し、東日本の3PL事業の拡大拠点として順調なスタートを切りました。また電材業界向けには、首都圏に続き近畿にも電材プラットフォームを開設し、共同配送網の拡充を進めました。家具業界についても、九州に千代田新倉庫を9月に開設、倉庫機能を拡充いたしました。

人材面においても、組織運営の責任を担うリーダーを対象に、物流オリジナル人材教育を実施しました。他社との人材交流研修では、新たな学びやスキル向上につながったと感じています。人的投資は事業活動の原動力であり、長期的な企業価値向上につながります。今期も引き続き、人材育成活動を強化していきます。

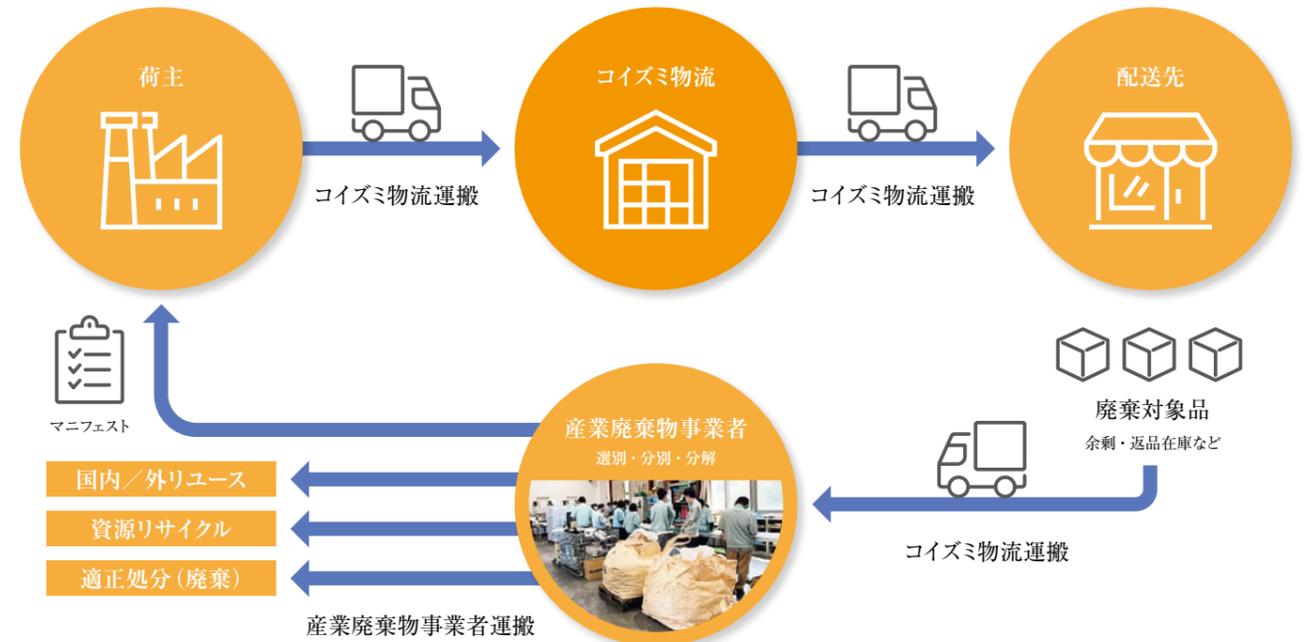
2024年度、物流業界は働き方改革を含め大きな変革の時代に入ります。環境変化に対応した企業成長を目指すべく、新中期の経営ビジョンは「社員と協力会社様・

顧客に信頼される物流会社になる」としました。コイズミ物流が掲げている行動指針が強みであり、それをベースに経営できているかが大切だと考えます。行動規範である“お客様・協力会社様・コイズミ物流の三方よし”を改めて確立し、強い会社、頼りにされる会社を目指してまいります。

また、「事業構造を変革し収益基盤を再構築する」ことを基本方針としました。従来型ビジネスから、外販を中心とした事業構造への変革を進めてまいります。そのために、組織を事業部制から役割型の機能別組織に変更し、専門性・効率性を高め、全社一体型活動の実践を進めます。外販をプロフィットセンター機能として利益創出する体制構築を確立し、当社の強みを活かした専門領域（電材、家電、家具）を深耕するほか、成長市場であるEC物流ビジネスを拡大します。また、価値転嫁型ビジネスを推進するため、物流のシステム構築によってお客様の抱える課題を解決できる物流会社を目指します。

物流業界の大変革1年目となる今期に社長に就任いたしました。長年築いてきた土台を次世代に継承することは変わりません。その上で変革を実現し、全てのステークホルダーに信頼される物流会社として成長させていきます。

## 企業の廃棄物を大幅に削減するサービスを提供



## リサイクル活動の推進サポート

コイズミ物流では、グループ各社の物流業務を担っていますが、グループ以外の荷主をお客様とする外販事業も行っています。

2024年問題で業界が揺れる中、もっとお客様に役立つサービスはないかと、フレキシブルな体制を活かす方法を検討しています。そんな中、『環境と人に配慮した廃棄物処理』を行っている事業者と知り合う機会がありました。具体的には、廃棄対象品を種類ごとに選別・分別・分解し、リユース・資源リサイクルといった再資源化できるモノと、産業廃棄物として適正に処分するモノに分けることにより、環境負荷低減につながるというものです。

「その内容を知り、お客様（荷主）が、余剰在庫や返品在庫を仕方なく廃棄しなければならない状況の打開策になるのでは、と考えました」（浅田）  
そこで、コイズミ物流が橋渡しとなり協業することで、荷主・産業廃棄物事業者・当社の“三

方よし」が実現しました。廃棄対象品を荷主に返すことなく、分別もできる産業廃棄物事業者へ直接運搬することで、荷主の作業負担や保管場所確保などが削減されます。

「これまで、一度返品となってしまった商品は完全未使用品でも全て廃棄物となってしまっていました。このシステムをご利用いただくことで、無駄な廃棄物を大幅に削減でき、環境への負荷も減らすことができます」（松尾）

また、同社では作業員の雇用面でも、ハンディキャップを持つ方々の就労支援が行われています。昨今、SDGsを重視する企業が増加している社会的背景も踏まえ、利益優先ではなく、社会貢献の役割も担うことが重要になっています。

お客様（荷主）からは、「窓口がコイズミ物流なので、安心して任せることができた」とのお声をいただいています。今後もコイズミ物流にしかできない“物流版三方よし”を実現していきます。

〔営業担当〕  
コイズミ物流株式会社  
浅田 啓一朗

〔営業担当〕  
コイズミ物流株式会社  
松尾 洋明

## 新倉庫開設

九州に開設した新倉庫では、家具関連の荷主倉庫機能を拡充し、効率的な業務が可能になりました。コイズミ物流では、物流受託領域を拡大することにより、家具業界にとっての経営安定化・運賃コスト削減・荷役生産性の向上を目指しています。

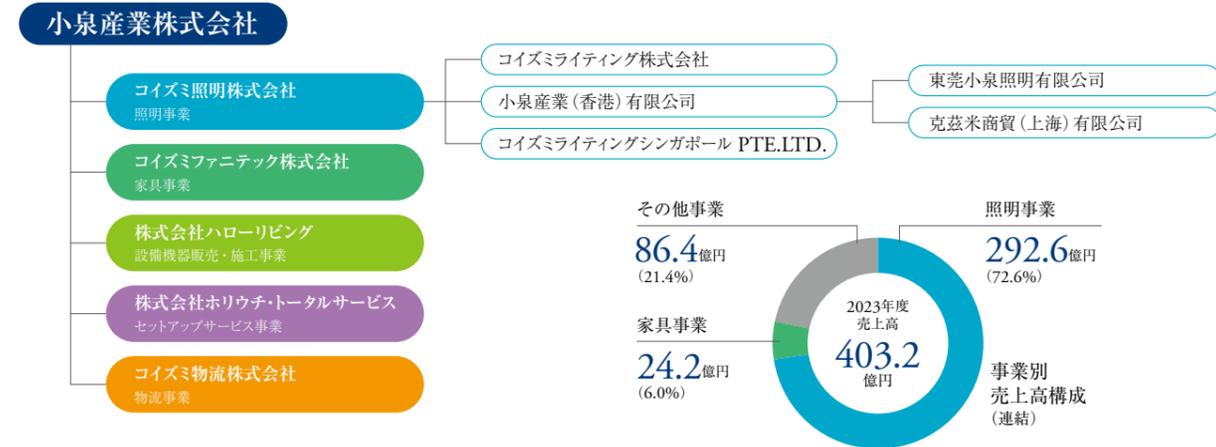


### 2024年度の重点方針

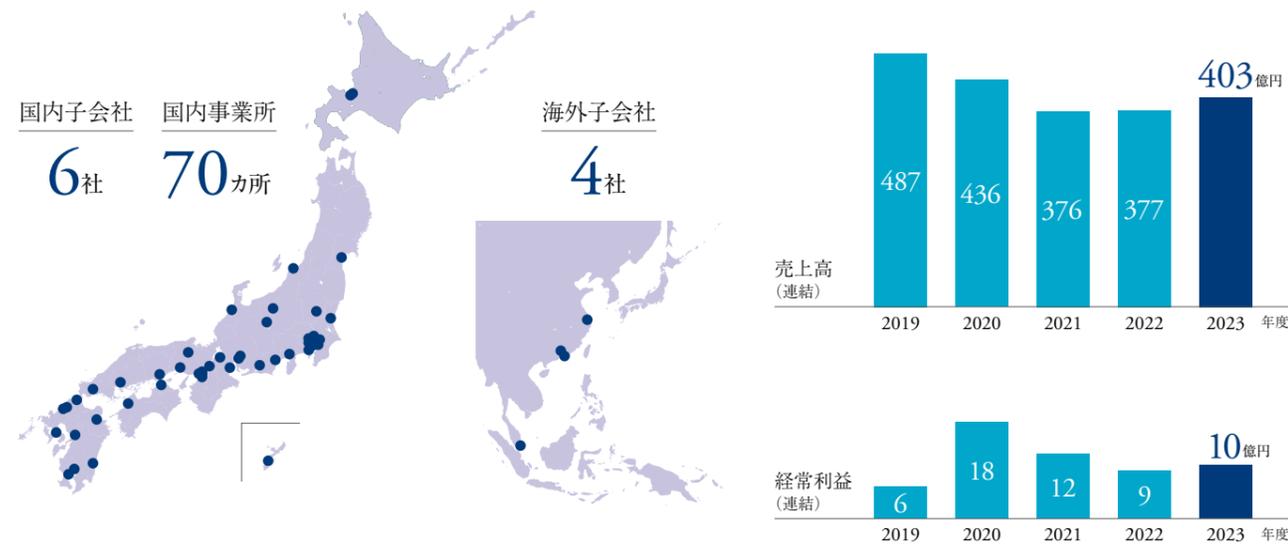
<b>外販を中心とした事業構造へ変革</b> ・外販の拡大 ・収益体質の改善 ・全拠点の黒字化を目指す	<b>価値転嫁型ビジネスの推進</b> ・マーケットイン活動の推進 ・物流サービスの再構築 ・新WMSの稼働	<b>組織構造の変革</b> ・営業力の強化 ・現場力の向上 ・生産性の向上	<b>自立型・能動的人材の育成</b> ・人材教育基盤の確立 ・人事制度の改定 ・働き方改革の推進	<b>社会価値の向上</b> ・SDGs活動の推進
--	---	---	--	------------------------------

# 小泉産業グループ概要

## グループの体制



## 国内ネットワークと海外ネットワーク



## グループの理念

社 是	人格の育成向上
グループ経営理念	新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し人と社会に夢と感動をつくり出します
グループ行動理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極果敢にチャレンジし、目標を必達します</li> <li>● 自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます</li> <li>● 互いに学び、人間力を高めます</li> <li>● 現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します</li> <li>● 三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります</li> <li>● 社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します</li> </ul>
グループビジョン	私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される“価値創造の専門集団”をめざします

## グループ各社情報

### 小泉産業株式会社

本社所在地	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7
代表者	代表取締役会長 権藤 浩二 代表取締役社長 矢本 博康
創 業	1716年(享保元年)
設 立	1943年6月25日
資 本 金	1,575百万円
従 業 員	グループ合計 1,408名 単体 61名
事 業 内 容	持株会社
子 会 社	10社

会社名	本社所在地	代表者	従業員	事業内容
コイズミ照明株式会社	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7	代表取締役社長 佐久間 晋	619名	照明器具の企画、開発、製造、販売
コイズミライティング株式会社	〒529-1512 滋賀県東近江市大塚町1289-2	代表取締役社長 宇野 正文	165名	照明器具の開発、製造
小泉産業(香港)有限公司	Units A-B, 26th Floor, 8 Hart Avenue, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong	董事長 杉本 健	15名	照明器具の企画、開発、製造、販売
東莞小泉照明有限公司	No.12,information & Industry Garden, Xihu District, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Province, P.R.China	董事長 杉本 健	158名	照明器具の開発設計・組立製造・販売 照明設計、品質管理等のコンサルティングサービス
克茲米商貿(上海)有限公司	2F 212, Apt.B, No.228 Wending Rd., Xuhui Dist., Shanghai 200030 P.R.C	董事長 植村 公平	45名	照明器具の企画、販売 他
コイズミライティングシンガポール PTE.LTD.	41 Ubi Crescent Singapore 408588	Director (CEO) Dave Wee	35名	照明器具、ランプ、照明器具部品の輸出入販売 照明デザインおよび電気工事
コイズミファニテック株式会社	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7	代表取締役社長 若林 俊宏	50名	学習、書斎、プレキッズ家具、寝具の企画、開発、製造、販売
株式会社ハローリビング	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-13-27 アイカビル8階	代表取締役社長 上原 正人	46名	住宅・店舗・施設の設備機器とインテリア商材の施工、販売
株式会社ホリウチ・トータルサービス	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-7 ビーエム兜町ビル3階	代表取締役社長 熊野 裕章	157名	ホテル・オフィス・商業施設等への家具・什器・設備等の搬入設置
コイズミ物流株式会社	〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-3-7	代表取締役社長 赤松 長太郎	57名	グループ各社と外販得意先の輸配送、保管、荷役